

# 令和2年度病害虫発生予察指導情報

## 対象病害虫：イネ・トビイロウンカ（No. 3）

令和2年9月3日  
鳥取県病害虫防除所

### 1 情報の内容

8月11日発表の令和2年度病害虫発生予察注意報第3号において、トビイロウンカの防除の徹底を呼びかけています。

9月2日現在、トビイロウンカは県下全域で発生しており、要防除水準（成幼虫数10頭/株）を超えているほ場も散見されます。引き続きトビイロウンカの急増による坪枯れの発生が懸念されますので、注意が必要です。

### 2 発生状況

(1) 8月25日～9月1日に行った巡回調査定点及びウンカ類調査定点（東部18地点、中部7地点、西部18地点、各地点5ほ場調査）におけるはらい落とし調査の結果、発生ほ場率は68.1%で、トビイロウンカの坪枯れが広域で発生した令和元年の同時期の発生ほ場率（32.7%）より高い。また、発生ほ場の株あたり虫数は1.8頭/株で、令和元年の同時期の株あたり虫数（0.1頭/株）より多い。

(2) 地域別の発生ほ場率は、東部83.5%、中部48.6%、西部60.9%であった。また、発生ほ場の株あたり虫数は、東部2.2頭/株、中部が2.4頭/株、西部1.0頭/株であった。いずれの地域とも、沿岸部から山間部までトビイロウンカが確認されている。

(2) 9月2日現在、トビイロウンカによる坪枯れは確認されていない。しかし、要防除水準（成・幼虫数10頭/株）を超えているほ場は県下全域で散見される。

(3) 現在、ほ場内では成虫及び幼虫が混在して発生している。また、増殖率の高い短翅成虫も県下全域で確認されており、今後も注意が必要な状況である。

### 3 防除上注意すべき事項

(1) 収穫時期が9月中旬までのほ場

ア 要防除水準を超えた場合、坪枯れの前兆となる坪状のイネの黄化又は小規模の坪枯れを発見した場合は、直ちに防除を行う。

イ 収穫期が迫り、防除が出来ないほ場は収穫適期の範囲内で早めに収穫する。

(2) 収穫時期が9月下旬以降のほ場

ア 出穂前後の防除を行っていないほ場は直ちに防除を行う。

イ 防除を行ったほ場においても発生状況には十分注意し、要防除水準を超えた場合、坪枯れの前兆となる坪状のイネの黄化又は小規模の坪枯れを発見した場合は、直ちに防除を行う。

ウ 収穫期が迫り、防除が出来ないほ場は収穫適期の範囲内で早めに収穫する。

(3) トビイロウンカは同一ほ場でも発生に偏りがあるが、ほ場周辺より内部での発生が多い傾向にあるので、ほ場を広く観察することに努める。

(4) 防除にあたっては農薬の収穫前日数及び総使用回数に注意するとともに、農薬の使用基準を遵守する。また、散布の際、本種の生息場所である株元に農薬が十分かかるようにする。また、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。

(5) 必要以上に早い落水は、坪枯れの発生を助長するので、適期落水に努める。